

[報告]

献血ルームにおけるイベントボランティア 募集強化による採血効率向上への取り組み

神奈川県赤十字血液センター

松岡優美，大村加織，大野 豊，三澤健慈，藤居一彦，中山明夫，千葉泰之，大久保理恵，藤崎清道

Approach to improve blood collection efficiency by strengthening recruitment of event volunteers in the blood donation room

Kanagawa Red Cross Blood Center

Yumi Matsuoka, Kaori Ohmura, Yutaka Ohno, Kenji Misawa, Kazuhiko Fujii,
Akio Nakayama, Yasuyuki Chiba, Rie Ohkubo and Kiyomichi Fujisaki

抄 錄

平日を中心とした閑散期における献血者の安定的確保は重点課題である。

横浜Leaf(リーフ)献血ルームではルームで実施するイベントに焦点をあて、以下3点の取り組みをした。①当センターのホームページにボランティア募集ページを新規掲載した。移動採血および献血ルーム別に募集したい活動メニューを具体的に列挙し、ボランティア登録の流れを表示することでボランティアの積極的な募集を図った。②当ルーム内にイベントボランティア募集用ポスターや実施中のイベントの開催予定などを掲示した。③FacebookなどのSNSを利用してイベントの宣伝を行いつつ、献血後の接遇時にはFacebookから「いいね！」を押してフォローしてもらうよう働きかけた。

その結果、当初は1種類のイベントを月に1回程度開催していたが、イベントの種類は12種類に増加し、開催数も月平均18回に増加した。平成28年度において、イベントがある平日の平均人数はない日よりも約6名増加した。全日合計では前年度よりも3,147名増加し、その内2,797名が平日であったことから、イベントを平日に多く実施したことが採血効率向上の一助になったと考えられる。また、次回の献血予約を勧める際にイベントカレンダーを活用したことも、予約数を前年度よりも2,469名上昇させる一因となった。

Key words: approach to improve blood collection efficiency,
blood donation room, event volunteers

【目 的】

当センターでは社内一体となって、採血効率の向上に取り組んでいるが、平日を中心とした閑散期における安定的な献血者の確保が重点課題となっている。当ルームでは、ルームで実施するイベ

ントに焦点をあて、ボランティアの募集を強化した。その結果、健康相談や占いなどの各種イベントを通じて閑散期における献血数を増加させ、採血効率の向上につながったので報告する。

【方 法】

平成27年秋から当センターのホームページ(図1)にボランティア募集ページを掲載し、ボランティアの積極的な募集を開始した。移動採血および献血ルーム別に募集したい活動メニューを具体的に列挙し、申込みから面談、保険加入、活動、修了証の発行までの流れを分かり易く表示した。続いて、ルーム内にイベントボランティア募集用ポスター やイベントの開催予定などを掲示した。また、FacebookなどのSNSを利用し、イベントの宣伝を行う一方で、献血後の接遇時には、Facebookから「いいね！」を押してフォローしてもらうよう働きかけた。

【結 果】

当ルームにおけるイベントの種類はとくにポスター掲示後に問い合わせが増え、当初の1種類から12種類に増加した。イベントの開催数も月平均で1回から18回に増加した。

平成29年12月現在、神奈川県内の献血ルームでは占い系・趣味系・健康系など全部で17種類のイベントを実施している(図2)。人気のイベントは手相診断やマヤ暦占いなどの占い系で、変わったイベントにはカウンセラーと対談する、ほっとカフェや、アマチュア落語家による落語会などがある。イベントへの参加は基本的に献血後としているが、カイロプラクティックなど副作用のリ



図1 神奈川センターホームページ
ボランティアになるまでの流れ

スクがあるイベントは献血前に実施するようにしている。

平成28年度の採血実績における平日の平均人数を比較すると、イベントがない日は92.5名、ある日は98.5名であった。イベントがある日はない日よりも全血献血・成分献血それぞれ3名ずつ、計6名増加した。全日合計で見ると平成27年度が36,341名、平成28年度が39,488名で、前年度よりも3,147名増加した。その内、2,797名が平日の採血人数であったことから、イベントを平日に多く実施したことでも採血効率の向上につながったと考えられる(図3)。また、接遇時にイベントカレンダーを活用して次回の成分献血の予約を推進したことにより、平成27年度は予約総数が5,872名であったが、平成28年度には8,341名となり、前年度よりも2,469名増加させる一助となつた(図4)。



図2 イベントの風景および種類

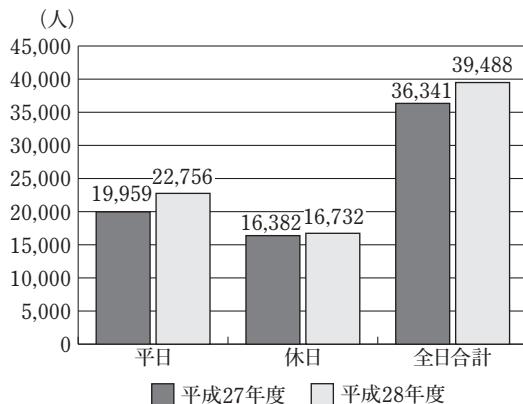


図3 横浜Leaf献血ルームにおける採血実績

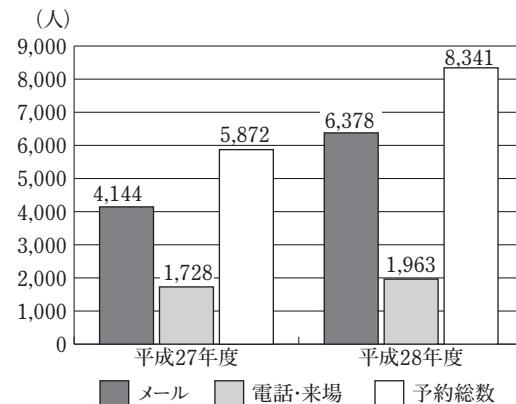


図4 横浜Leaf献血ルームにおける成分献血予約数

さらに、当ルームでは平成29年8月の1カ月間で「イベントを知ったきっかけ」について聞き取り調査を行った(図5)。その結果、2つのことがわかった。1つ目は献血者のうち86%がルームでの案内やポスターを見てイベントへの参加を希望したということである。2つ目は13%の献血者がSNSを通じてイベントを知り、来所したということである。Facebookでフォローしている献血者についてはイベント情報を定期的に閲覧できるので、今回だけではなく次回のイベントの周知にもつながると考えられる。

【考 察】

現在、当センター全体で37名がボランティアとして登録し、それぞれ活動する施設や活動回数も増えてきている。イベントの開催は献血数増加に有用であることから、今後さらに他ルームとの共催を含め拡大化を図り、平日などを中心に採血効率の向上を図っていきたい。

また、聞き取り調査の結果から、SNSの効果が安定的な献血者確保につながると判明したため、引き続きSNSを有効活用した広報展開に注力したい。

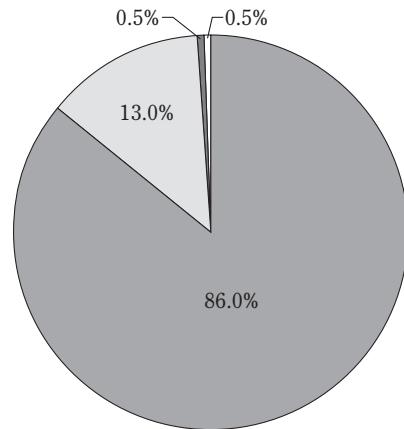


図5 聞き取り調査の結果